令和６年度 授業力向上推進プロジェクト　研究テーマ一覧　（外国語）

岐阜高等学校　　岸本　真里	
研究 テーマ	生成 AI を利用した生徒のやる気を引き出すライティング指導の研究
設定理由 内容	近年、高度な生成 AI が一般に普及し、生徒の学習活動における影響も無視できないものになっている。本研究ではライティング指導に生成 AI を導入することで、教員自身が生成 AI の特徴について理解を深めるとともに、生徒のやる気を引き出すような効果的な指導につなげることを目的とする。 英語コミュニケーションⅡの授業中にライティング課題を実施し、データで提出させる。それを生成 AI（ChatGPT）を用いて添削・採点すると同時に、ALT にも添削・採点してもらう。その後、生成 AI と ALT の添削・採点結果を比較し、生徒にアンケートを実施する。さらに、生成 AI によるフィードバックを活用したリライトを実施する。

長良高等学校　　桑原　啓優	
研究 テーマ	「主体的に学習に取り組む態度」を備えた学習者の育成を目指して
設定理由 内容	「主体的に学習に取り組む態度」の評価は「思考力・判断力・表現力」と一体化して行うとされているが、学習指導要領に示されるとおり、両者で求められる力は必ずしも一致していない。現在、評価の在り方についての議論が主流となっている一方で、「主体的に学習に取り組む態度」の育成に主眼を置く必要性を強く感じ、本テーマを設定した。 授業では、トピック提示後に追加の情報を与えたり、疑問点を記入させたりしながら、タスクを通じて学びを深める。学習者の自律的調整を促すため、Reflection Sheet を用いてタスクに対して言語面と内容面からの振り返りを行わせた後、記述内容に対してフィードバックを与えていくことで振り返りの質的向上を目指す。フィードバックの際には生成 AI 等を活用することで教員の負担を軽減しながら効果的に進められるよう工夫した。

岐阜農林高等学校　　櫻井　心	
研究 テーマ	「話すこと（やり取り・発表）」において主体的に学習に取り組む生徒の育成と評価方法
設定理由 内容	普段指導している生徒を対象にしたアンケート結果によると、70%以上が「話すこと」に苦手意識をもっていることが分かった。一方で、67%の生徒が「話すこと」を最も身につけたい、伸ばしたい領域として回答した。そのため授業内の活動やパフォーマンステストを通して、話す力の育成及び学習到達目標の達成に向けた指導方法を研究する。 英語コミュニケーションⅠを履修している計 78 名の 1 年生が対象で、英語に苦手意識をもつ生徒が多い。毎 Lesson において、「自分の考えや経験を即興で話す力」や「目的や場面、状況に応じて会話をする力」の育成のため、教科書本文の内容に関連したトピックを用いた帯活動を行う。前期末には“Pictograms”をテーマにパフォーマンステストを実施した。単元の初めに実施方法と CAN-DO リストに即したルーブリックを生徒に示し、教員間及び生徒へも共通理解を図った。テスト後は教員からのフィードバックや自己評価を踏まえ、次の学習に繋がるよう工夫した。

可児高等学校　　堀江　菜那	
研究 テーマ	思考力・判断力・表現力の育成を目指した Retelling の実践
設定理由 内容	思考力・判断力・表現力を問う問題を定期考査ごとに出題しているが、生徒の反応はネガティブなもので、授業で指導した内容を出題できているのか課題意識を感じていた。知識・技能を活用することで思考力・判断力・表現力は身につくため、生徒が理解したかどうかは生徒から発せられる言葉からのみ判断することができると考え、言語活動、特に Retelling を今より充実させたいと考えた。 英語コミュニケーションⅢの授業において、教材の内容理解をさせ、Retelling を実施する。複数回リテリングタスクを与え、フィードバックと練習を繰り返す過程で、内容理解の方法、Retelling を行うための支援による理解度の変化を調査する。

瑞浪高等学校　　三輪　奈央美	
研究 テーマ	パフォーマンステストを通して、生徒の主体的に英語でコミュニケーションをとる態度の育成を図る指導の研究
設定理由 内容	指導と評価の一体化を図り、観点別学習状況の評価を行う上で、パフォーマンステストは重要な役割を果たす。しかし、実際の授業では「言いたいことが英語でうまく表現できない」という生徒が多く、授業とパフォーマンステストとの間にギャップが生じているという課題が見られる。そこで、本研究では段階的な指導を通して「言える」という成功体験を積み重ね、生徒が主体的に英語でコミュニケーションをとる意欲を高めることを目指す。 英語コミュニケーションⅠにおいて、単元の導入段階で ALT によるトピックの導入とパフォーマンステストのモデルを提示する。各パートの最後には、アウトプット活動を組み込んで段階的な指導を実施する。生徒がつまずいた点は全体で確認し、強化することで繰り返し練習する機会を提供する。スピーキング活動の後には必ずライティング活動を取り入れる。

恵那南高等学校　　山川　真弘	
研究 テーマ	学習者の苦手意識を克服する「話すこと（やり取り）」の指導 ―コミュニケーション・ストラテジー(CS)指導を軸としたアプローチ―
設定理由 内容	本校生徒を対象にした授業前アンケートの結果、「話すこと」全般への苦手意識がある生徒が８割という実態が明らかになった。主な要因に「自身の知識・技能への自信のなさ」があり、英語学習へ苦手意識のある学習者で主に構成されている学習集団において、限られた言語運用能力での「やり取り」を支える CS の指導を段階的に行った。 まず、先行研究における「コミュニケーション能力」の整理と CS 指導の計画を行う。その後、指導計画をもとに教材と指導方法を開発する。定着に向けた学習活動と言語活動、研究授業、実技小テスト、パフォーマンステストを実施する。本実践を通じて、CS の活用した「やり取り」の方法の具体例を報告したい。

飛騨神岡高等学校　　横山　貴大	
研究 テーマ	持続可能な「異文化理解・交流の促進」～姉妹校とのオンライン交流を通して～
設定理由 内容	英語をツールとして「異文化を持つ人々とコミュニケーションをとる経験」をすることが生徒の英語学習へのモチベーションを底上げすることにつながるのではないかと考えた。本校が昨年度姉妹校を締結した台湾の新港芸術高校とのオンライン交流やその前後の指導を軸に、無理のない範囲での持続可能な異文化交流を研究したいと考えた。 論理表現Ⅰにおいて２年生文理Ⅰ系列８名が、交流前の５時間を使って、スケジュールとオンライン交流の経緯・意義・目的・内容を説明し、各グループでプレゼンの作成と練習を行った。最終日にはＡＬＴに対してプレ発表会を行い、フィードバックを参考に各自で修正した。交流後の２時間ではアンケートを実施したり、録画した交流の様子を視聴することで振り返りの参考とした。